



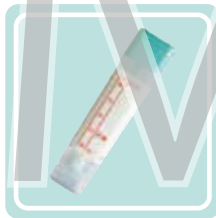
転送不要

SAMPLE 〇〇市

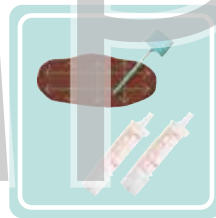
# 「自宅で簡単にできる」

## 大腸がん検診は便検査です\*。

「大腸がん検査って、お尻からカメラ入れるやつでしょ」と誤解してる方多いんです。最初の大腸がん検診は自宅で便を2日間採取して医療機関に提出するだけ。それで異常が見つかった場合のみ、医療機関で内視鏡の検査をするんですよ。



検査キット



容器のフタについた棒で便の表面を採取

注) 痔の方もお受けください。現在明らかな出血や痛みがある場合は時期をずらして受けることをおすすめしますが、そのような症状がない場合は検査結果にはほぼ影響がありません。

\* 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合もあります。

このはがきは、がん検診受診率向上希望の虹プロジェクトが作成しました。

# 大腸がん検診の流れ

対象:40歳以上

自己負担:0000円

### 1.受診場所を選ぶ

市ホームページに掲載されている医療機関リストからお選びください。

詳しくは

〇〇市がん検診

検索



### 2.医療機関に検査容器と問診票を取りに行く



### 3.自宅で便を2日間採取



### 4.検査容器と問診票を医療機関に提出



### 5.検査の結果

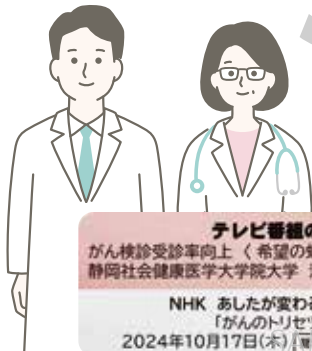
約2~3週間程で結果が出ます。検査結果を確認してください。

**「要精密検査」という結果が出た場合は、必ず医療機関で精密検査を受けてください。**

精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。

\* 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

SAMPLE 令和00年度 〇〇市



大腸がん  
検診の  
お知らせ

テレビ番組のご案内  
 がん検診受診率向上「希望の虹プロジェクト」  
 静岡社会健康医学大学院大学 満田友里准教授が制作に協力！  
 NHK あしたが変わるトリセツショー  
 「がんのトリセツSP」(仮)  
 2024年10月17日(木) 19:30~放送予定

〇〇市も参加しています

OPEN

# 〇〇市より約0,000円の 助成\*があります。

大腸がん検診(便検査)は個人診療の場合、4千円程度かかる検査ですが、40歳以上の方(昭和xx年x月xx日までに生まれた方)が市の検診を受けると、市から約x,xxx円の助成を受けていることになります。(自己負担xxx円)

検査費用	約〇〇〇〇円
助成金	約〇〇〇〇円
自己負担金	〇〇〇〇円

\*現金が支給されるわけではありません。

今年度の受診期限は、令和00年0月00日

例年、受診期限が近付くと大変混みます。お早めにご予約・ご受診ください。

〇〇市 健康福祉部 〇〇〇〇課  
〒000-0000 〇〇〇〇〇〇〇〇〇-00-0  
TEL 000-000-0000 FAX 000-000-0000

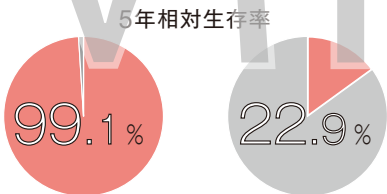
# 専門医に聞きました。 大腸がんについて、大事なポイント

## 「早く見つけて、早く治す」

ことが大切。早期のうちに治療すれば

95%以上が治癒します\*1

大腸がんは、早期で発見すれば、多くの場合負担の少ない内視鏡での手術(入院は2~3日、または必要なし)で治療が可能です。しかし、進行してがんが肺などに遠隔転移した後に発見すると、生存率は大きく下がってしまいます。



早期発見した場合(I期)

早期発見できなかった場合(IV期)

\*1 ここでいう「治る(=治療)」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。出典:全がん協加盟施設における5年生存率(2010~2012年前断例)

大腸がんは 早期のうちほとんど

## 「自覚症状がありません」

みなさん「血便がでたら」とか「異常を感じたら」病院に行こうとおっしゃるんですが、大腸がんは、早期には自覚症状がないんです。「異常を感じたら」では、手遅れになる場合があります。だから検診は毎年定期的に受けてください。もちろん、血便、腹痛、便の性状や回数に変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たずに病院に行きましょう。

大腸がん罹患する人が増加しており、女性の部位別がん死亡数第1位。男性でも肺がん・胃がんに次いで死亡者数が多いんです\*2。検診を受けることでがんによる死亡リスクが減少します。命を守るため、大腸がん検診を必ず受けてください。

\*2 出典:国立がんセンター がん情報サービス「最新がん統計」人口動態統計(2019年)



SAMPLE

SAMPLE

SAMPLE